



Call Display Restrictions 機能

Call Display Restrictions 機能を使用すると、コールまたは接続されている回線についてどのような情報を表示するかを、コールを行っているユーザに応じて選択することができます。Cisco Unified Communications Manager の管理ページの特定の設定項目を使用すると、各コールに関する情報を表示するか制限するかを選択できます。

たとえば、ホテル環境で、客室とフロント デスクとの間で行われたコールの情報は表示し、客室間で行われたコールについては、いずれの電話機でもコール情報を表示しないとします。Call Display Restrictions 機能を使用すると、このような表示が可能になります。

この章では、Cisco Unified Communications Manager での Call Display Restrictions 機能の使用に関する次の情報について説明します。

- 「Call Display Restrictions の設定チェックリスト」(P.4-1)
- 「Call Display Restrictions 機能について」(P.4-2)
- 「Call Display Restrictions のシステム要件」(P.4-4)
- 「Call Display Restrictions を使用する場合のシナリオ」(P.4-4)
- 「インタラクション」(P.4-5)
- 「Call Display Restrictions の設定」(P.4-6)
- 「関連項目」(P.4-15)

Call Display Restrictions の設定チェックリスト

Call Display Restrictions 機能を使用すると、コールまたは接続されている回線についてどのような情報を表示するかを、コールを行っているユーザに応じて選択することができます。Cisco Unified Communications Manager の管理ページの特定の設定項目を使用すると、各コールに関する情報を表示するか制限するかを選択できます。

たとえば、ホテル環境で、客室とフロント デスクとの間で行われたコールの情報は表示し、客室間で行われたコールについては、いずれの電話機でもコール情報を表示しないとします。Call Display Restrictions 機能を使用すると、このような表示が可能になります。

表 4-1 に、Call Display Restrictions を設定する際のチェックリストを示します。Call Display Restrictions の詳細については、「Call Display Restrictions 機能について」(P.4-2) および「関連項目」(P.4-15) を参照してください。

表 4-1 Call Display Restrictions の設定チェックリスト

設定手順	関連手順と関連項目
ステップ 1 客室、フロント デスク、クラブ、および PSTN にパーティションを設定します。「パーティション」(P.4-9) を参照してください。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「パーティションの設定値」
ステップ 2 コール パークの電話番号を設定するか、またはコール パークの電話番号の範囲を定義します。客室からのコール パーク取得用に、各コール パークの電話番号にトランスレーション パターンを設定します。「コール パーク」(P.4-13) を参照してください。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「コール パーク番号の設定」
ステップ 3 コーリング サーチ スペース内にパーティションを持つユーザだけがパーティションを使用できるようにコール パーク電話番号のパーティションを設定します。「パーティション」(P.4-9) および「コール パーク」(P.4-13) を参照してください。	「パーティションの設定値」
ステップ 4 客室、フロント デスク、クラブ、PSTN のコーリング サーチ スペースと、客室のパーク範囲 (コール パーク用) を設定します。「コーリング サーチ スペース」(P.4-10) を参照してください。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「コーリング サーチ スペースの設定」
ステップ 5 客室、フロント デスク、クラブの電話、および PSTN のゲートウェイを設定します。「デバイスとゲートウェイ」(P.4-10) を参照してください。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「Cisco Unified IP Phone の設定」 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「デバイス プロファイルの設定」
ステップ 6 トランスレーション パターンとルート パターンを設定します。「トランスレーション パターン」(P.4-11) を参照してください。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「トランスレーション パターンの設定」 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「ルート プランの概要」

Call Display Restrictions 機能について

Call Display Restrictions 機能は、Cisco Unified Communications Manager 5.0 以降のバージョンを実行している Cisco Unified Communications Manager クラスタ内で動作します。Call Display Restrictions 機能を有効にするには、次のパラメータを設定する必要があります。

サービス パラメータ

- Always Display Original Dialed Number

トランスレーション パターンのパラメータ

- [発呼者回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)]
- [接続先回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation)]

電話機の設定およびユーザ デバイス プロファイルのパラメータ

- [プレゼンテーションインジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators、内線コールのみ)]

これらの設定を組み合わせることによって、各コールの情報表示を許可するか制限するか、および接続先番号をどのように表示するかを決定できます。

この項の内容は次のとおりです。

- 「[Call Display Restrictions 機能の概要](#)」(P.4-3)
- 「[Call Display Restrictions の有効化](#)」(P.4-3)

Call Display Restrictions 機能の概要

Call Display Restrictions を使用すると、コールまたは接続回線の情報を選択的に表示または制限できます。次のようなニーズがあると思われるホテル環境では、この機能が頻繁に必要になります。

- 客室とフロント デスクとの間のコールについては、客室とフロント デスクの両方で互いのコール情報を表示する必要がある。
- 客室間のコールについては、互いにコール情報を表示しない。
- 客室とホテルの他の内線 (クラブ ハウスなど) との間のコールについては、客室だけにコール情報が表示されるようにする。
- 構内電話システム (PSTN) からフロント デスクまたは客室にかかってきた外部コールの場合は、表示設定が制限されている発信者のコール情報は表示しないようにする。
- フロント デスクにかかってくるすべてのコールについては、内部コールのコール情報を表示する。
- フロント デスクで客室からのコールをセキュリティに転送する場合、客室の電話機にはフロント デスクのダイヤル番号だけが表示されるようにする。

Call Display Restrictions の有効化

Call Display Restrictions 機能は、さまざまなトランスレーション パターンを通じたコールのルーティングを行ってから実際のデバイスに送達することを基盤にしています。ユーザが適切なトランスレーション パターン番号をダイヤルすることによって表示が制限されます。

トランスレーション パターンの設定

Call Display Restrictions を有効にするには、[発呼者回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)] パラメータと [接続先回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation)] パラメータに適切なオプションを選択して、表示制限のレベルが異なるトランスレーション パターンを設定します。

これらのパラメータの詳細については、「[トランスレーション パターンのパラメータ設定](#)」(P.4-7) を参照してください。



ヒント

トランスレーション パターンに加えて、パーティションとコーリング サーチ スペースも設定する必要があります。これらの設定の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「[トランスレーション パターンの設定](#)」の章を参照してください。

電話機の設定およびユーザ デバイス プロファイルの設定

次に [プレゼンテーションインジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators、内線コールのみ)] パラメータを有効にして、内部コールに関して受け取る表示制限を無視するように設定し、デバイスがリモート ユーザのコール情報を表示するようにします。

この設定の詳細については、「電話の設定」(P.4-8)を参照してください。

エクステンション モビリティが有効になっている電話機にログインするユーザについては、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [デバイスプロファイルの設定 (Device Profile Configuration)] ウィンドウでも、この項目を設定します。エクステンション モビリティとの対話の詳細については、「エクステンション モビリティ」(P.4-6)を参照してください。

接続先番号の表示

コールがトランスレーション パターンまたはルート パターンを介してルーティングされた場合や、Call Forward All (CFA; 不在転送) または Call Forward Busy (CFB; 話中転送) の宛先にルーティングされた場合、あるいはコール転送または CTI アプリケーションによってリダイレクトされた場合は、接続先番号の表示が更新され、変更後の番号またはリダイレクト先の番号が表示されます。

電話機で表示の更新をオフにして、ダイヤル番号だけが表示されるようにするには、Cisco CallManager サービス パラメータの「Always Display Original Dialed Number」を [True] に設定します。このサービス パラメータが [True] に設定されている場合、コール期間中は、発信側の電話機にダイヤル番号だけが表示されるようになります。

Call Display Restrictions のシステム要件

Call Display Restrictions をサポートしているソフトウェア コンポーネントは、次のとおりです。

- Cisco Unified Communications Manager

Call Display Restrictions をサポートしているデバイスは、次のとおりです。

- Cisco Unified IP Phone 6900 シリーズ (6901 および 6911 を除く)
- Cisco Unified IP Phone 7900 シリーズ
- Cisco Unified IP Phone 8900 シリーズ
- Cisco Unified IP Phone 9900 シリーズ
- H.323 クライアント
- CTI ポート
- Cisco IP Communicator

Call Display Restrictions を使用する場合のシナリオ

次のシナリオで、Call Display Restrictions の使用例を示します。

- フロント デスクから客室 1 にコール：両方の電話機に互いのコール情報が表示される。
- フロント デスクから客室 1 にコールし、さらにフロント デスクは客室 2 にコールを転送：最後に接続された客室 1 と客室 2 では、互いにコール情報が表示されない。
- 外部 (PSTN) からフロント デスクにコール：フロント デスクは外部発信者の表示設定を順守する。
- 外部 (PSTN) から客室 1 にコール：客室 1 では外部発信者の表示設定を順守し、外部発信者には客室 1 のコール情報は表示されない。
- 客室 1 からフロント デスクにコール：両方の電話機に互いの情報が表示される。
- 客室 1 から客室 2 にコール：いずれの電話機にも互いの情報は表示されない。

- 客室 1 からフロント デスクにコールし、フロント デスクはこのコールを客室 2 に転送：最後に接続された客室 1 と客室 2 では、互いにコール情報は表示されない。
- 客室 1 からフロント デスク 1 にコールし、フロント デスク 1 はこのコールをフロント デスク 2 に転送：最後に接続された客室 1 とフロント デスク 2 では、互いにコール情報が表示される。
- 客室 1 から客室 2 にコールし、客室 2 はこのコールをフロント デスクに転送：客室 1 とフロント デスクでは、互いにコール情報が表示される。
- クラブ ハウスから客室 1 にコール：クラブ ハウスではコール情報は表示されないが、客室 1 ではコール情報が表示される。
- 会議コールのすべての参加者：すべての電話機のコール情報表示は「To Conference」になる。
- 客室 1 からクラブ ハウスにコールし、クラブ ハウスのマネージャはすべてのコールを自分の携帯電話に自動転送：客室 1 ではクラブ ハウスの番号だけが表示される。

インタラクシオン

次の各項では、Call Display Restrictions 機能が Cisco Unified Communications Manager のアプリケーションおよびコール処理とどのように通信するかを説明します。

- 「コール パーク」(P.4-5)
- 「会議リスト」(P.4-6)
- 「会議とボイスメール」(P.4-6)
- 「エクステンション モビリティ」(P.4-6)

接続先番号の表示制限は、クラスタで発信されるすべてのコールに適用されます。この設定は、[True] に設定されている場合、既存の Cisco Unified Communications Manager アプリケーション、機能、およびコール処理と透過的に通信します。設定は、クラスタの内部または外部で終端するコールすべてに適用されます。

コール パーク

Call Display Restrictions 機能とコール パークを併用する場合は、Call Display Restrictions 機能を維持するように、各コール パーク番号について関連するトランスレーション パターンを設定する必要があります。コール パーク番号の範囲に対応するように単一のトランスレーション パターンを設定することはできません。

次のシナリオを例として検討してください。

1. システム管理者は範囲が 77x のコール パークを作成し、P_ParkRange という名前のパーティションに配置しました（客室の電話では、P_ParkRange パーティションが電話機のコーリング サーチスペースに含まれていることによって客室の電話から可視になっていることを表示できます (CSS_FromRoom)）。
2. 管理者は、各コール パークの電話番号に個別のトランスレーション パターンを設定し、表示設定には [非許可 (Restricted)] を指定しました（このシナリオでは、管理者は 770、771、772 ... 779 のトランスレーション パターンを作成しています）。



(注) Call Display Restrictions 機能が正しく動作するためには、単一のトランスレーション パターンで番号の範囲に対応する (77x や 77[0-9]) のではなく、管理者は個別のトランスレーション パターンを設定する必要があります。

3. 客室 1 が客室 2 にコールしました。
4. 客室 2 はコールに応答し、客室 1 はコールをパークしました。
5. 客室 1 がコールを取ると、客室 2 には客室 1 のコール情報は表示されません。

コール パーク機能の使用方法的詳細については、「[コール パークとダイレクト コール パーク](#)」(P.5-1) を参照してください。

会議リスト

Call Display Restrictions を使用する場合は、会議の参加者リストの情報表示を制限します。会議リストの詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager システム ガイド*』の「[Cisco Unified IP Phone](#)」の章にある「[電話機能](#)」の項を参照してください。

会議とボイスメール

会議やボイスメールなどの機能と Call Display Restrictions を併用する場合は、電話機のコール情報表示にステータスが反映されます。たとえば、会議機能を起動すると、「To Conference」というコール情報が表示されます。メッセージ ボタンを選択してボイスメールにアクセスすると、「To Voicemail」というコール情報が表示されます。

エクステンション モビリティ

Call Display Restrictions とエクステンション モビリティを併用するには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウと Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [デバイスプロファイルの設定 (Device Profile Configuration)] ウィンドウで [プレゼンテーションインジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators、内線コールのみ)] パラメータを有効にする必要があります。

エクステンション モビリティで Call Display Restrictions を有効にすると、デバイスにログインしたユーザに関連付けられている回線プロファイルによってコール情報が表示または制限されます。つまり、ユーザ デバイス プロファイルに入力された (ユーザに関連付けられている) 設定は、電話機設定で入力された設定 (エクステンション モビリティが有効になっている電話機のもの) に優先します。

Call Display Restrictions の設定

Call Display Restrictions 機能を使用するには、Cisco Unified Communications Manager を次のように設定する必要があります。

- パーティションとコーリング サーチ スペースを設定してからトランスレーション パターンを追加する。
- 異なるレベルの表示制限によるトランスレーション パターンを設定する。
- [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで、[プレゼンテーションインジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators、内線コールのみ)] チェックボックスをオンにして、内部コールのコール情報が常に表示されるようにする。
- 個々のコール パークの電話番号に、個別のトランスレーション パターンを関連付けて設定することで、コール パーク機能と連携する。

- Always Display Original Dial Number サービス パラメータを [True] に設定することで、プライバシーを確保し、リダイレクトされたコールに対する接続先番号の更新をブロックする。

この項では、次のトピックについて取り上げます。

- 「Call Display Restrictions の設定チェックリスト」(P.4-1)
- 「トランスレーション パターンのパラメータ設定」(P.4-7)
- 「電話の設定」(P.4-8)
- 「設定例」(P.4-9)



ヒント

Call Display Restrictions を設定する前に、「Call Display Restrictions の設定チェックリスト」(P.4-1) を参照してください。

トランスレーション パターンのパラメータ設定

Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [トランスレーションパターンの設定 (Translation Pattern Configuration)] ウィンドウで、次のパラメータを設定します。



ヒント

発信コールについては、着信側のトランスレーション パターン設定が、発信側 Cisco Unified Communications Manager クラスタの設定よりも優先される場合があります。

[発呼者回線IDの表示 (Calling Line ID Presentation)]

Cisco Unified Communications Manager では、コールごとに発信側の電話番号を表示または制限するための補足サービスとして、[発呼者回線IDの表示 (Calling Line ID Presentation)] を使用します。次のいずれかのオプションを選択することによって、このトランスレーション パターンで発信側の電話番号を着信側の電話機に表示するか制限するかを決定できます。

- [デフォルト (Default)] : このオプションは、[発呼者回線IDの表示 (Calling Line ID Presentation)] を変更しません。
- [許可 (Allowed)] : Cisco Unified Communications Manager によって発信側の番号の表示が許可されます。
- [非許可 (Restricted)] : Cisco Unified Communications Manager によって発信側の番号の表示がブロックされます。



(注)

着信コールがトランスレーション パターンまたはルート パターンを経由し、[発呼者回線IDの表示 (Calling Line ID Presentation)] の設定が [許可 (Allowed)] または [非許可 (Restricted)] になっている場合、発呼者回線の表示はトランスレーション パターンまたはルート パターンの設定によって変更されます。

[接続先回線IDの表示 (Connected Line ID Presentation)]

Cisco Unified Communications Manager では、コールごとに着信側の電話番号を表示または制限するための補足サービスとして、[接続先回線IDの表示 (Connected Line ID Presentation)] を使用します。次のいずれかのオプションを選択することによって、このトランスレーション パターンで着信側の電話番号を発信側の電話機に表示するか制限するかを決定できます。

- [デフォルト (Default)] : このオプションは、[接続先回線IDの表示 (Connected Line ID Presentation)] を変更しません。

- [許可 (Allowed)] : このオプションは、着信側の電話番号を表示します。
- [非許可 (Restricted)] : Cisco Unified Communications Manager によって着信側の電話番号の表示がブロックされます。



(注) 着信コールがトランスレーション パターンまたはルート パターンを経由し、[接続先回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation)] の設定が [許可 (Allowed)] または [非許可 (Restricted)] になっている場合、着信回線の表示インジケータはトランスレーション パターンまたはルート パターンの設定によって変更されます。



(注) 接続先番号の表示制限が有効の場合、接続先番号の表示は、変更後の番号またはリダイレクト先の番号には更新されません。

例

- ある客室から別の客室にかけられたコールについては、コール情報が表示されないように [発呼者回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)] と [接続先回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation)] を [非許可 (Restricted)] に設定します。
- フロント デスクから客室にかけられたコールについては、両方にコール情報が表示されるように [発呼者回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)] を [許可 (Allowed)] に設定し、[接続先回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation)] を [非許可 (Restricted)] に設定します。



ヒント

発信側トランスフォーメーションと着信側トランスフォーメーションの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「[ルート プランの概要](#)」の章を参照してください。

電話の設定

Call Display Restrictions 機能の設定を完了するには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで [プレゼンテーションインジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators、内線コールのみ)] チェックボックスをオンにします。

エクステンション モビリティと併用する場合は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [デバイスプロファイルの設定 (Device Profile Configuration)] ウィンドウでも、この項目を設定する必要があります。

[プレゼンテーションインジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators、内線コールのみ)] フィールドの設定では、次のことに注意してください。

- 通話相手が内部である場合、Cisco Unified Communications Manager は常にリモート側のコール情報を表示します。
- 通話相手が外部で表示が制限されている場合、Cisco Unified Communications Manager はリモート側のコール情報を表示しません。



(注) [発呼者回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)] および [接続先回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation)] では、Cisco Unified Communications Manager が内部発信者の表示設定を無視するように [プレゼンテーションインジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators、内線コールのみ)] パラメータを設定してください。外部からの着信コールについては、[プレゼンテーションインジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators、内線コールのみ)] パラメータが設定されていても、受信した表示インジケータが維持されます。

- ホテルのフロント デスクで使用されている電話機では [プレゼンテーションインジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators、内線コールのみ)] チェックボックスがオンになっているため、フロント デスクでは内部コールのコール情報を常に表示できます。

**ヒント**

電話の設定の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「Cisco Unified IP Phone の設定」の章を参照してください。デバイス プロファイルの設定の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「デバイス プロファイルの設定」の章を参照してください。

設定例

次に、Call Display Restrictions 機能を有効にした設定例を示し、次の情報について説明します。

- 「パーティション」(P.4-9)
- 「コーリング サーチ スペース」(P.4-10)
- 「デバイスとゲートウェイ」(P.4-10)
- 「トランスレーション パターン」(P.4-11)
- 「コール パーク」(P.4-13)

パーティション

Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [パーティションの設定 (Partition Configuration)] ウィンドウで、次のパーティションを設定します。

- 実パーティション P_Room の挿入
- 実パーティション P_FrontDesk の挿入
- 実パーティション P_Club の挿入
- 実パーティション P_PSTN の挿入
- トランスレーション パーティション P_CallsFromRoomToRoom の挿入
- トランスレーション パーティション P_CallsFromRoomToFrontDesk の挿入
- トランスレーション パーティション P_CallsFromRoomToClub の挿入
- トランスレーション パーティション P_CallsFromRoomToPSTN の挿入
- トランスレーション パーティション P_CallsFromFrontDeskToRoom の挿入
- トランスレーション パーティション P_CallsFromFrontDeskToFrontDesk の挿入
- トランスレーション パーティション P_CallsFromFrontDeskToClub の挿入
- トランスレーション パーティション P_CallsFromFrontDeskToPSTN の挿入
- トランスレーション パーティション P_CallsFromPSTN の挿入
- トランスレーション パーティション P_CallsFromClubToRoom の挿入
- トランスレーション パーティション P_CallsFromClubToFrontDesk の挿入
- トランスレーション パーティション P_FrontDeskToParkNumber の挿入
- トランスレーション パーティション P_RoomToParkNumber の挿入
- トランスレーション パーティション P_ParkNumberRange の挿入

コーリング サーチ スペース

Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [コーリングサーチスペースの設定 (Calling Search Space Configuration)] ウィンドウで、次のコーリング サーチ スペースを設定します。

- コーリング サーチ スペース CSS_Room の挿入 {P_Room}
- コーリング サーチ スペース CSS_FrontDesk の挿入 {P_FrontDesk}
- コーリング サーチ スペース CSS_Club の挿入 {P_Club}
- コーリング サーチ スペース CSS_PSTN の挿入 {P_PSTN}
- コーリング サーチ スペース CSS_FromRoom の挿入
{ P_CallsFromRoomToFrontDesk, P_CallsFromRoomToRoom, P_CallsFromRoomToClub, P_CallsFromRoomToPSTN, P_RoomToParkNumber, P_ParkNumberRange }
- コーリング サーチ スペース CSS_FromFrontDesk の挿入
{ P_CallsFromFrontDeskToRoom, P_CallsFromFrontDeskToClub, P_CallsFromFrontDeskToPSTN, P_CallsFromFrontDeskToFrontDesk }
- コーリング サーチ スペース CSS_FromPSTN の挿入
{ P_CallsFromPSTN }
- コーリング サーチ スペース CSS_FromClub の挿入
{ P_CallsFromClubToRoom, P_CallsFromClubToFrontDesk }
- コーリング サーチ スペース CSS_RoomParkRange の挿入
{P_ParkNumberRange }

デバイスとゲートウェイ

Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウおよび Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウで、次の電話機とゲートウェイを設定します。

- 電話機 A (Room-1) にパーティション P_Room とデバイス/回線コーリング サーチ スペース CSS_FromRoom を設定
{ P_Phones, CSS_FromRoom } : 221/Room-1
- 電話機 B (Room-2) にパーティション P_Room とデバイス/回線コーリング サーチ スペース CSS_FromRoom を設定
{ P_Phones, CSS_FromRoom } : 222/Room-2
- 電話機 C (Front Desk-1) にパーティション P_FrontDesk とデバイス/回線コーリング サーチ スペース CSS_FromFrontDesk を設定し、Ignore Presentation Indicators チェックボックスをオンにする
{ P_FrontDesk, CSS_FromFrontDesk, IgnorePresentationIndicators set } : 100/Reception
- 電話機 D (Front Desk-2) にパーティション P_FrontDesk とデバイス/回線コーリング サーチ スペース CSS_FromFrontDesk を設定し、Ignore Presentation Indicators チェックボックスをオンにする
{ P_FrontDesk, CSS_FromFrontDesk, IgnorePresentationIndicators set } : 200/Reception
- 電話機 E (Club) にパーティション P_Club とコーリング サーチ スペース CSS_FromClub を設定
{ P_Club, CSS_FromClub } : 300/Club
- PSTN ゲートウェイ E にルート パターン P_PSTN とコーリング サーチ スペース CSS_FromPSTN を設定
{CSS_FromPSTN}, RoutePattern {P_PSTN}

トランスレーション パターン

Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [トランスレーションパターンの設定 (Translation Pattern Configuration)] ウィンドウで、次のトランスレーション パターンを設定します。

- トランスレーション パターン TP1 を 1XX として挿入
[パーティション (Partition)] : P_CallsFromRoomToFrontDesk
CSS : CSS_FrontDesk
[発呼者回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)] および [発呼者名の表示 (Calling Name Presentation)] : [非許可 (Restricted)]
[接続先回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation)] および [接続先名の表示 (Connected Name Presentation)] : [許可 (Allowed)]
{P_CallsFromRoomToFrontDesk, CSS_FrontDesk, Calling Line/Name - [非許可 (Restricted)], Connected Line/Name - [許可 (Allowed)]}
- トランスレーション パターン TP2 を 2XX として挿入
[パーティション (Partition)] : P_CallsFromRoomToRoom
CSS : CSS_Room
[発呼者回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)] および [発呼者名の表示 (Calling Name Presentation)] : [非許可 (Restricted)]
[接続先回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation)] および [接続先名の表示 (Connected Name Presentation)] : [非許可 (Restricted)]
{P_CallsFromRoomToRoom, CSS_Room, Calling Line/Name - [非許可 (Restricted)], Connected Line/Name - [非許可 (Restricted)]}
- トランスレーション パターン TP3 を 3XX として挿入
[パーティション (Partition)] : P_CallsFromRoomToClub
CSS : CSS_Club
[発呼者回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)] および [発呼者名の表示 (Calling Name Presentation)] : [非許可 (Restricted)]
[接続先回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation)] および [接続先名の表示 (Connected Name Presentation)] : [許可 (Allowed)]
{P_CallsFromRoomToClub, CSS_Club, Calling Line/Name - [非許可 (Restricted)], Connected Line/Name - [許可 (Allowed)]}
- トランスレーション パターン TP4 を 9XXXXX とし、着信側トランスフォーメーション マスクを XXX として挿入
[パーティション (Partition)] : P_CallsFromRoomToPSTN
CSS : CSS_PSTN
[発呼者回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)] および [発呼者名の表示 (Calling Name Presentation)] : [非許可 (Restricted)]
[接続先回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation)] および [接続先名の表示 (Connected Name Presentation)] : [デフォルト (Default)]
{P_CallsFromRoomToPSTN, CSS_PSTN, Calling Line/Name - [非許可 (Restricted)], Connected Line/Name - [デフォルト (Default)]}
- ルート パターン RP5 を 9.XXXXXX として挿入し、数字は PreDot として破棄 (DDI : PreDot)
[パーティション (Partition)] : P_CallsFromRoomToPSTN
CSS : CSS_PSTN
[発呼者回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)] および [発呼者名の表示 (Calling Name Presentation)] : [非許可 (Restricted)]
[接続先回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation)] および [接続先名の表示 (Connected Name Presentation)] : [デフォルト (Default)]
{P_CallsFromRoomToPSTN, CSS_PSTN, Calling Line/Name - [非許可 (Restricted)], Connected Line/Name - [デフォルト (Default)]}

- トランスレーション パターン TP6 を 2XX として挿入
 [パーティション (Partition)] : P_CallsFromFrontDeskToRoom
 CSS : CSS_Room
 [発呼者回線IDの表示 (Calling Line ID Presentation)] および [発呼者名の表示 (Calling Name Presentation)] : [許可 (Allowed)]
 [接続先回線IDの表示 (Connected Line ID Presentation)] および [接続先名の表示 (Connected Name Presentation)] : [非許可 (Restricted)]
 {P_CallsFromFrontDeskToRoom, CSS_Room, Calling Line/Name - [許可 (Allowed)], Connected Line/Name - [非許可 (Restricted)]}
- トランスレーション パターン TP7 を 1XX として挿入
 [パーティション (Partition)] : P_CallsFromFrontDeskToFrontDesk
 CSS : CSS_FrontDesk
 [発呼者回線IDの表示 (Calling Line ID Presentation)] および [発呼者名の表示 (Calling Name Presentation)] : [許可 (Allowed)]
 [接続先回線IDの表示 (Connected Line ID Presentation)] および [接続先名の表示 (Connected Name Presentation)] : [許可 (Allowed)]
 {P_CallsFromFrontDeskToFrontDesk, CSS_FrontDesk, Calling Line/Name - [許可 (Allowed)], Connected Line/Name - [許可 (Allowed)]}
- トランスレーション パターン TP8 を 3XX として挿入
 [パーティション (Partition)] : P_CallsFromFrontDeskToClub
 CSS : CSS_Club
 [発呼者回線IDの表示 (Calling Line ID Presentation)] および [発呼者名の表示 (Calling Name Presentation)] : [許可 (Allowed)]
 [接続先回線IDの表示 (Connected Line ID Presentation)] および [接続先名の表示 (Connected Name Presentation)] : [許可 (Allowed)]
 {P_CallsFromFrontDeskToClub, CSS_Club, Calling Line/Name - [許可 (Allowed)], Connected Line/Name - [許可 (Allowed)]}
- トランスレーション パターン TP9 を 9XXXX として挿入
 [パーティション (Partition)] : P_CallsFromFrontDeskToPSTN
 CSS : CSS_PSTN
 [発呼者回線IDの表示 (Calling Line ID Presentation)] および [発呼者名の表示 (Calling Name Presentation)] : [許可 (Allowed)]
 [接続先回線IDの表示 (Connected Line ID Presentation)] および [接続先名の表示 (Connected Name Presentation)] : [デフォルト (Default)]
 {P_CallsFromFrontDeskToPSTN, CSS_PSTN, Calling Line/Name - [許可 (Allowed)], Connected Line/Name - [デフォルト (Default)]}
- ルートパターン RP10 を 9.XXXXX として挿入し、数字は PreDot として破棄
 [パーティション (Partition)] : P_CallsFromFrontDeskToPSTN
 CSS : CSS_PSTN
 [発呼者回線IDの表示 (Calling Line ID Presentation)] および [発呼者名の表示 (Calling Name Presentation)] : [非許可 (Restricted)]
 [接続先回線IDの表示 (Connected Line ID Presentation)] および [接続先名の表示 (Connected Name Presentation)] : [デフォルト (Default)]
 {P_CallsFromFrontDeskToPSTN, CSS_PSTN, Calling Line/Name - [非許可 (Restricted)], Connected Line/Name - [デフォルト (Default)]}

- トランスレーション パターン TP11 を 1XX として挿入
[パーティション (Partition)] : P_CallsFromClubToFrontDesk
CSS : CSS_FrontDesk
[発呼者回線IDの表示 (Calling Line ID Presentation)] および [発呼者名の表示 (Calling Name Presentation)] : [許可 (Allowed)]
[接続先回線IDの表示 (Connected Line ID Presentation)] および [接続先名の表示 (Connected Name Presentation)] : [許可 (Allowed)]
{ P_CallsFromClubToFrontDesk, CSS_FrontDesk, Calling Line/Name - [許可 (Allowed)], Connected Line/Name - [許可 (Allowed)] }
- トランスレーション パターン TP12 を 2XX として挿入
[パーティション (Partition)] : P_CallsFromClubToRoom
CSS : CSS_Room
[発呼者回線IDの表示 (Calling Line ID Presentation)] および [発呼者名の表示 (Calling Name Presentation)] : [許可 (Allowed)]
[接続先回線IDの表示 (Connected Line ID Presentation)] および [接続先名の表示 (Connected Name Presentation)] : [非許可 (Restricted)]
{ P_CallsFromClubToRoom, CSS_Room, Calling Line/Name - [許可 (Allowed)], Connected Line/Name - [非許可 (Restricted)] }
- トランスレーション パターン TP13 を 1XX として挿入
[パーティション (Partition)] : P_CallsFromPSTN
CSS : CSS_FrontDesk
[発呼者回線IDの表示 (Calling Line ID Presentation)] および [発呼者名の表示 (Calling Name Presentation)] : [非許可 (Restricted)]
[接続先回線IDの表示 (Connected Line ID Presentation)] および [接続先名の表示 (Connected Name Presentation)] : [許可 (Allowed)]
{ P_CallsFromPSTN, CSS_FrontDesk, Calling Line/Name - [非許可 (Restricted)], Connected Line/Name - [許可 (Allowed)] }

コールパーク

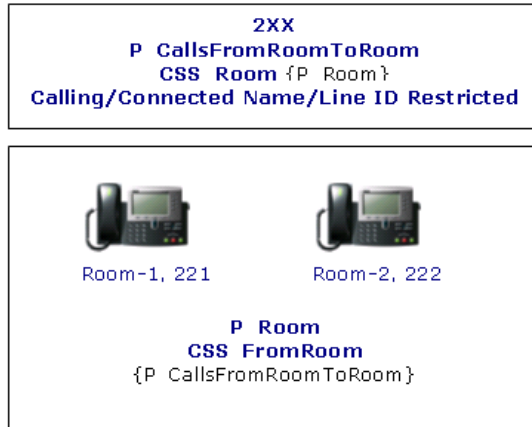
ページの [コールパーク番号の設定 (Call Park Number Configuration)] ウィンドウで、コールパーク機能の次の項目を設定します。Cisco Unified Communications Manager の管理

- コールパーク電話番号 888X を挿入
[コールパーク番号/範囲 (Call Park Number/Range)] : P_ParkNumberRange/888X
- 次からのコールパーク取得に対してトランスレーションパターンを設定
客室 : TP (11 ~ 20) : 8880 ~ 8889
[パーティション (Partition)] : P_RoomToParkNumber
CSS : CSS_RoomParkRange
[発呼者回線IDの表示 (Calling Line ID Presentation)] および [発呼者名の表示 (Calling Name Presentation)] : [非許可 (Restricted)]
[接続先回線IDの表示 (Connected Line ID Presentation)] および [接続先名の表示 (Connected Name Presentation)] : [非許可 (Restricted)]

コールフローの例

図 4-1 に、単純なコールフローの例を示します。また、このシナリオでどのように Call Display Restrictions 機能が動作するかを説明します。

図 4-1 コールフローの例



1. 客室 1 が客室 2 (電話番号 222) にコールします。
2. 客室 1 には CSS_FromRoom が設定されているため、客室 1 は P_CallsFromRoomToRoom パーティション内の電話機だけにアクセスできます。
3. P_CallsFromRoomToRoom パーティションには 2XX が含まれていますが、電話番号 222 (客室 2) は含まれていません。
4. コールは情報表示が制限されたトランスレーション パターン TP:2XX にルーティングされます。
5. トランスレーション パターン TP:2XX には、コーリング サーチ スペース CSS_Room が設定されているため、パーティション P_Room にアクセスできます。
6. コーリング サーチ スペース CSS_Room には、電話番号 222 (客室 2) が含まれています。
7. コールは客室 2 に接続されますが、トランスレーション パターン TP:2XX によって情報表示は制限されます。

接続先番号の表示制限に関するサービスパラメータの設定

接続先番号の表示制限では、接続先の回線 ID 表示がダイヤル番号だけに制限されます。このオプションを使用すると、お客様のプライバシー問題や、接続先番号の表示が電話機ユーザに不要である場合に対処できます。

管理者は、接続先番号の表示制限パラメータを設定する場合は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで [システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] にアクセスします。次に、Cisco CallManager サービスが動作するサーバを選択し、[Cisco CallManager] サービスを選択します。

この機能を有効にするには、Always Display Original Dialed Number サービスパラメータを [True] に設定します。デフォルト設定は [False] です。

関連項目

- 「Call Display Restrictions の設定チェックリスト」(P.4-1)
- 「Call Display Restrictions 機能について」(P.4-2)
- 「Call Display Restrictions のシステム要件」(P.4-4)
- 「Call Display Restrictions を使用する場合のシナリオ」(P.4-4)
- 「インタラクション」(P.4-5)
- 「Call Display Restrictions の設定」(P.4-6)
- 「接続先番号の表示制限に関するサービス パラメータの設定」(P.4-14)
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「トランスレーション パターンの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「Cisco Unified IP Phone の設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「コーリングサーチ スペースの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「デバイス プロファイルの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーション ガイド』の「パーティションの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco Unified IP Phone」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「電話機能」

参考資料

- 『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』
- 『Cisco Unified IP Phone Administration Guide for Cisco Unified Communications Manager』
- Cisco Unified IP Phone のユーザ資料とリリース ノート (すべてのモデル)

